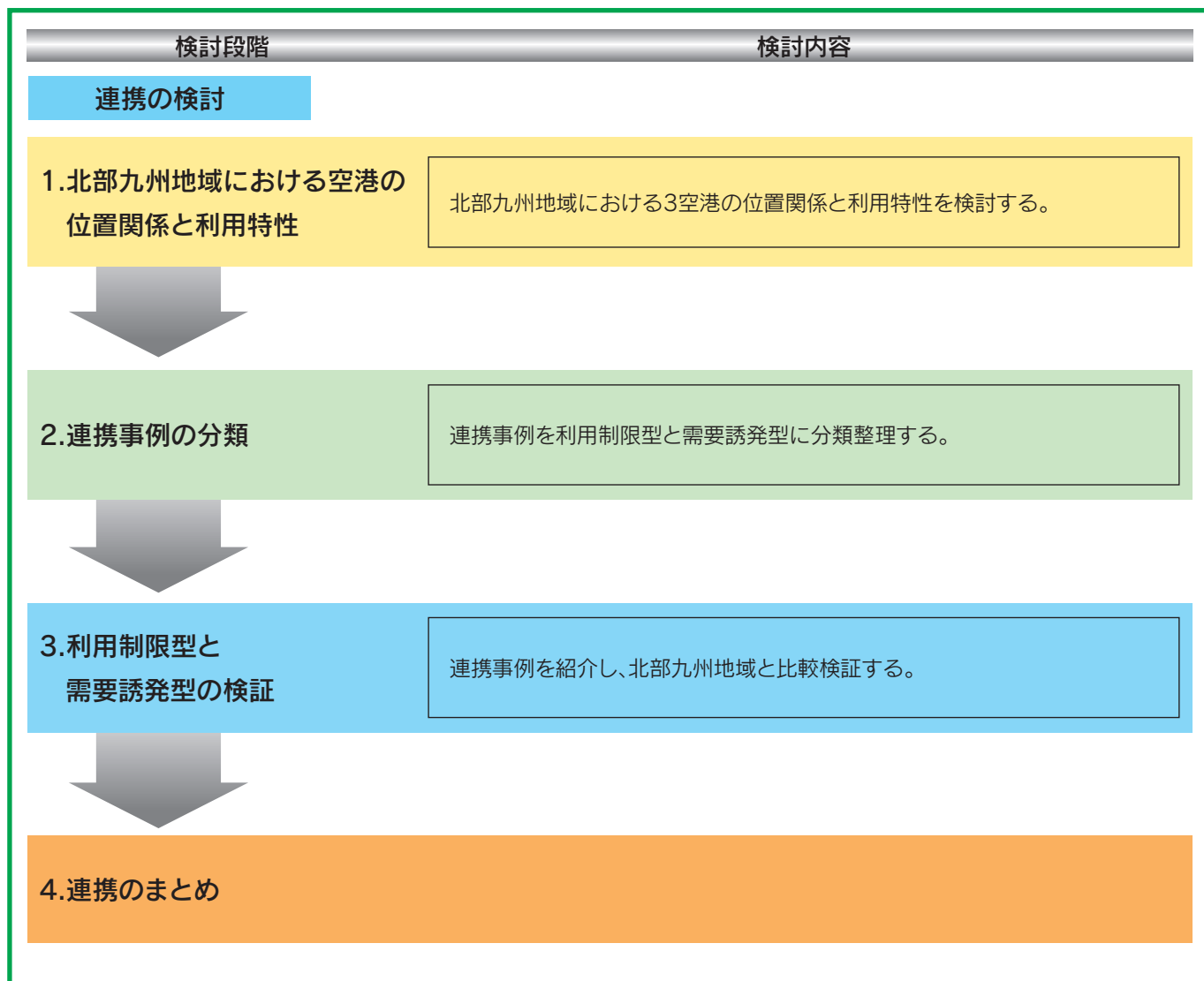


1. 近隣空港との連携について

近隣空港との連携については、以下のプロセスにより整理を行います。

検討プロセス



将来需要への対応方策の検討

1. 近隣空港との連携について

1) 北部九州地域における空港の位置関係と利用特性

(1) 近隣空港の概要

● 新北九州空港

[概要(諸元等)]

設置及び管理者 国土交通大臣(第2種空港)

滑走路 2,500m×1本

運用時間 24時間

開港日 2006年3月16日



旅客数(2006年度速報値)

1,270,666人

貨物取扱量(2006年度速報値)

4,842トン

● 佐賀空港

[概要(諸元等)]

設置及び管理者 佐賀県(第3種空港)

滑走路 2,000m×1本

運用時間 6:30~21:00  
(18.5時間)0:00~4:00

開港日 1998年7月28日



旅客数(2006年度速報値)

298,554人

貨物取扱量(2006年度速報値)

17,848トン

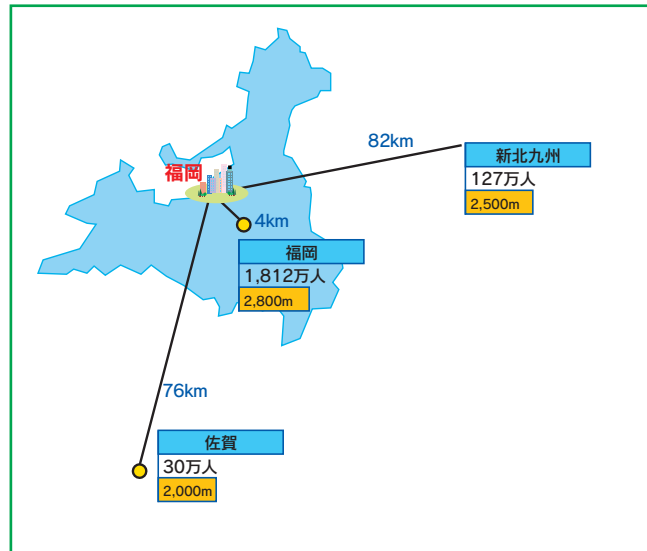
将来需要への対応方策の検討

1. 近隣空港との連携について

1) 北部九州地域における空港の位置関係と利用特性

(2)位置関係

福岡空港とその近隣空港の位置関係は以下に示すとおりです。複数空港を運用している国内の他都市と比較し、近隣空港は福岡空港からの距離が遠く、需要が大きい福岡都市圏の外に位置しています。

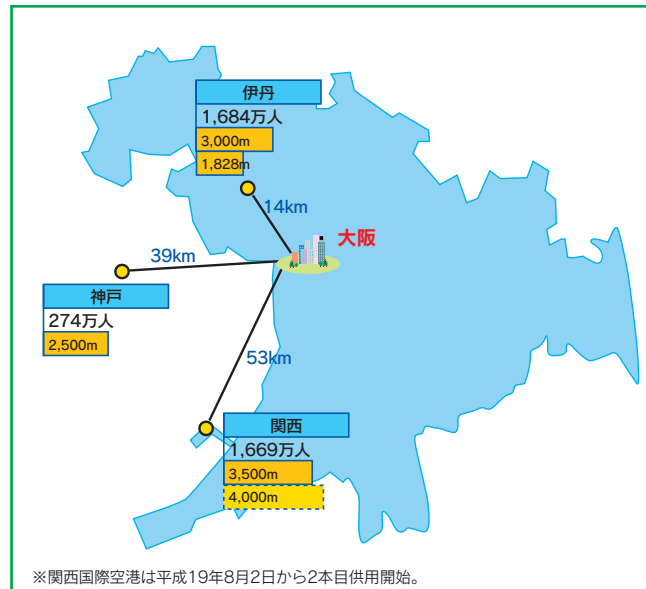
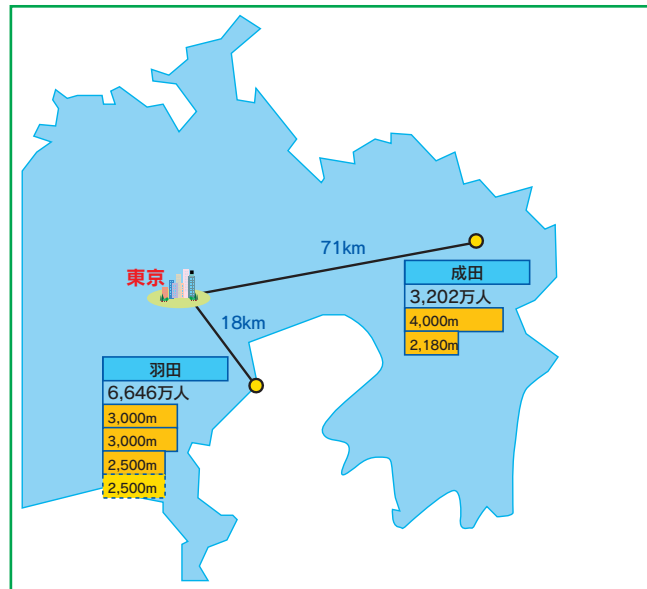


〔凡例〕

空港名	2006年度の旅客数 (国際線・国内線計 万人/年)	供用滑走路 (m)
新北九州	127万人	2,500m
福岡	1,812万人	2,800m
佐賀	30万人	2,000m

〔道路距離km〕  
都市の中心駅(博多駅、東京駅、大阪駅)から空港までの道路距離 (インターネット検索より)

母都市への  
通勤依存率10%以上



※関西国際空港は平成19年8月2日から2本目供用開始。

※母都市への通勤依存率: 定住地から福岡市、東京都特別区、大阪市へそれぞれ通勤している人口の割合が10%以上のものを指しています。

将来需要への対応方策の検討

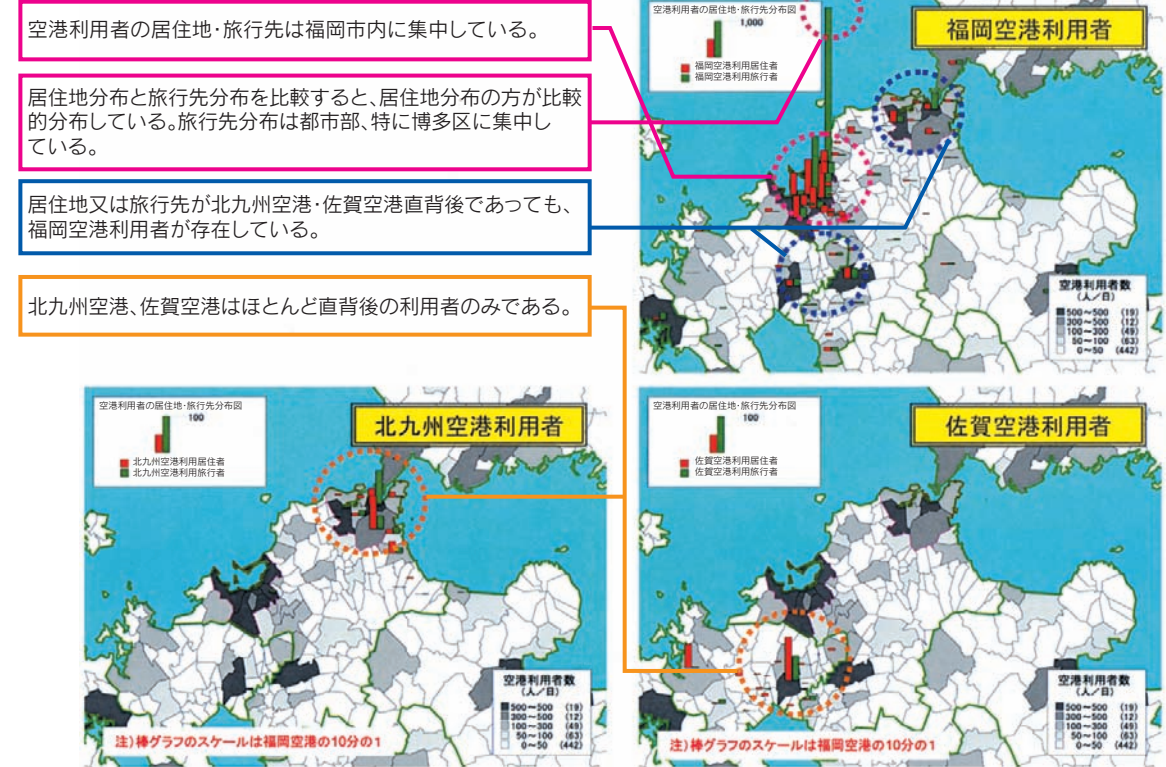
1. 近隣空港との連携について

1) 北部九州地域における空港の位置関係と利用特性

(3)利用特性

福岡空港の利用者は福岡都市圏が中心であり、北部九州全体に分布しています。居住地又は旅行先が北九州空港や佐賀空港の周辺でも、航空路線・便数の多い福岡空港を利用する人が多数存在します。一方、北九州空港、佐賀空港の利用者は、それぞれ各空港周辺に分布しています。

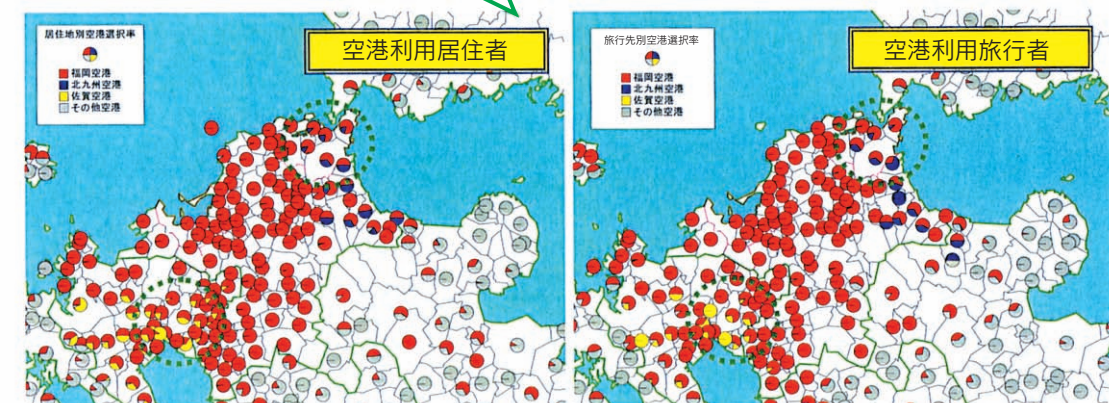
空港利用者の居住地・旅行先分布図



資料:「平成15年度 航空旅客動態調査」(国土交通省航空局)をもとに作成

空港利用者の空港選択率

居住地又は旅行先が北九州空港・佐賀空港直背後であっても、福岡空港利用者が存在している。



将来需要への対応方策の検討